

かぜ（かぜ症候群）

<どんな症状>

かぜは、くしゃみ、鼻水、のどの痛みなどに始まって、鼻づまり、せき、ゼロゼロ、熱などの症状が特徴で、鼻、口から咽喉までの空気の通り道（上気道）の粘膜に炎症がおきている状態をいいます。これより奥の気管支や肺におこった炎症は、気管支炎や肺炎と呼んでいます。冬のかぜは、鼻やのどなどの症状が強いものが多いのですが、嘔吐や下痢などおなかの症状をとまうものもあります。冬、夏はもちろんのこと、季節の変わり目に引くこともあり、もっとも多い病気です。

<どんな病気>

ほとんどのかぜはウイルスが原因でおこります。かぜのウイルスは知られているだけでも160種以上あるので、次々と別のかぜにかかることもあります。冬と夏では流行するタイプが違います。

かぜの特効薬はないので、熱を下げたり、のどの痛みを軽くしたり、症状をやわらげる対症療法が中心になります。症状が重かったり、長びいたり、生後まもなくの乳児の場合は早めに受診しましょう。冬のかぜのウイルスは低温で乾燥している環境で活発に活動するので、加湿器などで湿度を保って静かにすごしましょう。

